（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 ６ 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立特別支援学校坂戸ろう学園 ）

校長からの提案⇒企画・学部・分掌部会にて検討

目指す学校像	多様な社会の中でたくましく生きるための力を育む、地域から信頼される学校

重点目標	
	１　幼児児童生徒が主体的・対話的に学ぶ力を身に付け、自己肯定感の醸成につながる授業実践を積み上げる。 ２　坂戸市障害者福祉課及び自治会等と共に、ろう・難聴理解、手話の普及啓発活動を行い、地域とのつながりをより一層深める。 ３　学部・分掌部会の業務改善に取り組み、働き方改革（月45時間・年360時間以内）の目標を達成する。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

１　授業改善
２　開かれた学校づくり
３・４　その他

※　デフフッド：ろう者になるための探求課程を意味する概念

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　　名
　　生徒　　名
　　事務局（教職員）　　名

学校自己評価					年度目標		年度評価（２月１日 現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者評価 実施日　令和　年　月　日 学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・幼児児童生徒の実態に応じた思考力の達成状況の評価や学びに対する主体性の引き出し方について検討が必要である。 ・外部講師や他校とのオンライン交流授業を実施し、学びの意欲につなげていくことも検討していく。 ・他校の授業を見学する機会が激減しているため、教職員が学び合う研修体制を再構築する必要がある。 ・全日本聾教育研究大会東京大会に積極的に参加し、専門性を高める研修につなげていく。	①主体的・対話的に学ぶ力の育成及び自己肯定感の醸成を目指した取組 ②聴覚障害教育の専門性維持向上の取組	①デフフッドの視点を取り入れた授業づくりの実践事例集を作成する。 ①「自分を見つめる」「セルフアドボカシー」を取り上げた教育活動を実施する（学級活動、自立活動、文化祭の発表、スピーチ発表、生徒会活動）。 ②全日本聾教育研究大会東京大会に積極的に参加し、東京都立ろう学校の授業実践の見学や他校の情報を入手する。 ②専門性の維持継承、他校との比較等、校内授業研究・研究協議を活用して本校の良さを確認する。	①専門性向上研修や新転任者研修資料に活用できるデフフッド指導事例集が作成できたか。 ①自己肯定感の醸成につながる授業を展開できたか。 ②全日本聾教育研究大会東京大会に積極的に参加し、他都道府県の情報や指導実践を研修できたか。 ②デフフッドの視点、主体的・対話的に学ぶ力、自己肯定感の醸成を校内授業研究・研究協議において取り上げ研究研修を実施できたか。				
2	・昨年度の実績をもとに、坂戸市障害者福祉課や企業と共同でイベント等に取り組む計画が進行中である。地域のイベントに参加する場合、担当学部や部署を分散化し、計画的に実施する必要がある。 ・地域に根差した、地域と共に歩むろう学園を目指し、学校だよりやホームページを通して積極的に発信していく。	①坂戸市障害者福祉課、自治会との手話普及啓発活動の実施 ②企業と連携した共生社会への取組	①坂戸市障害者福祉課との共同事業を推進する（電話リレーサービス講習会、手話言語の普及啓発事業、手話言語の小中学生への普及及び交流）。 ①自治会との交流を積極的に深める（会場提供、夏祭りへの参加）。 ②ウエルシア薬局と連携し、聴覚障害者に配慮した店舗の工夫等、ユニバーサルデザインへの取組を行う。 ②中学部職場体験を新規開拓、実施する。（対象：中２、２日間）	①地域関係機関と連携し、電話リレーサービス説明会、ブルーライトアップイベント、坂戸市小学生への手話の普及、第一住宅坂戸団地夏祭りにおいて手話理解啓発活動が実施できたか。 ②ウエルシア地域包括推進部と連携しユニバーサルデザインの視点での教育活動が実施できたか。 ②生徒の実態に応じた中学部職場体験を実施できたか。				
3	・働き方改革基本方針に基づき、抜本的な業務削減と優先順位を付けた業務の遂行を実施する必要がある。 ・学部、分掌部会、委員会、各個人単位で明確な目標を示し、達成可能な目標から取り組んでいく。 ・教職員不祥事根絶のため、職員ミニ研修を実施し、未然防止を重視する。	①業務改善（業務の効率化・削減内容）の評価・反省と時間外在校時間月45時間以内で収めるための工夫 ②風通しの良い職場環境と不祥事事故の根絶	①学部・分掌部会において業務改善の目標を掲げ、取組の評価を実施する（12月）。 ①校務支援システム及びDocuWorks導入時の援助体制を構築する（9月）。 ①各職員自己評価シートに働き方改革の目標を設定し、計画的に取り組む。 ②各職員室、学部間のコミュニケーションを円滑に行い、情報共有、共通理解を促進する。 ②不祥事防止のためのミニ研修を実施し、未然防止を強化する。	①学部、分掌部会、委員会等において優先順位を付けた業務削減を検討し、達成度（○△×）を見える化できたか。 ①各職員の自己評価シートで目標を明確に示し、無理のない計画の下達成できたか。 ②教職員ポータル、Zoomチャットを活用し、漏れのないコミュニケーションを図り、情報共有、共通理解が達成できたか。 ②職員会議終了後のミニ研修を実施し、不祥事根絶を達成できたか。				